

テーマ：2011年4-6月期GDP予測値の微修正
～国際収支統計の結果を受け、予測値を前期比年率▲2.5%に若干上方修正～

発表日：2011年8月8日（月）

第一生命経済研究所 経済調査部
主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○ 国際収支統計の結果を受けて予測値を若干上方修正

2011年4-6月期の実質GDP成長率（8月15日公表予定）は前期比年率▲2.5%（前期比▲0.6%）と予測する。当社は、7月29日の段階で前期比年率▲2.6%（前期比▲0.7%）を予想していたが、その後公表された経済指標の結果を反映し、僅かに上方修正を行った。名目成長率の予想も前期比年率▲5.7%（前期比▲1.4%）と、従来予測値（前期比年率▲5.9%、前期比▲1.5%）から若干下方修正した。

本日公表された6月分の国際収支統計において、サービス輸出入が筆者の仮置き値を上回ったことから、輸出が前期比▲4.9%（従来予測値：同▲5.3%）、輸入が同▲0.3%（従来予測値：同▲0.6%）と、7月29日時点での予測値からそれぞれ上方修正を行った。輸出の上方修正幅が輸入よりも大きいことから、外需寄与度の予測値は前期比年率▲3.0%ポイント（従来予測値：▲3.1%ポイント）と僅かに上方修正となった。なお、8月6日に公表された6月分の家計消費状況調査の結果を反映して個人消費についても再推計を行ったが大きな影響はなく、従来の予測値（前期比▲0.4%）から変更していない。その他の需要項目についても変更はない。

2011年4-6月期のGDPは、2010年10-12月期、2011年1-3月期に続いて大幅なマイナス成長になった可能性が高い。もっとも、月次統計でみれば3～4月を底として景気は明確に改善しており、5、6月の経済指標は軒並み高い伸びを示している。そのため、4-6月期という四半期で見れば、3、4月の落ち込みが響く形で大幅な減少になる一方で、7-9月期については、5、6月の上昇が効くことで高い発射台からのスタートになるため、成長率は高まりやすい。さらに、1次補正予算の効果が顕在化することなどが予想されることも踏まえると、7-9月期については高成長が確実な情勢である。

（需要項目ごとの予測値の詳細と解説は、Economic Indicators「2011年4-6月期GDP予測」（7月29日発行）をご参照ください）

2011年4-6月期GDP予測

（％）	
実質GDP	▲ 0.6
（前期比年率）	▲ 2.5
内需寄与度	0.1
（うち民需）	▲ 0.1
（うち公需）	0.2
外需寄与度	▲ 0.7
民間最終消費支出	▲ 0.4
民間住宅	▲ 4.5
民間企業設備	▲ 0.6
民間在庫品増加（寄与度）	0.3
政府最終消費支出	0.4
公的固定資本形成	2.4
財貨・サービスの輸出	▲ 4.9
財貨・サービスの輸入	▲ 0.3
名目GDP	▲ 1.4
（前期比年率）	▲ 5.7

※断りの無い場合、前期比（％）
（出所）内閣府「国民経済計算」